

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 8

大豆の遅播き対策と今後の管理について

本年の大豆播種は、6月下旬ごろから県北部で始まり、7月上旬までに約12%（前年1%）が終了しています。また、梅雨明けが7月13日頃と平年に比べ6日早くなり、7月中旬から本格的に播種が始まっています。ただし、一部の地域では、播種後の激しい雨によりクラスト（土膜）ができ、出芽不良も見られます。

播種が遅れると開花までの期間が短くなり、十分な栄養生長期間を確保できないため、生育量不足により低収となりますので、早急に播種を行いましょう。

1 遅播きでの播種のポイント

- 生育量を確保するため播種量を増やす（右表参照）。
※播種前に必ず、播種量の設定を確認する。
- 基肥を窒素成分で2kg/10a施用する。

表 時期別の播種量（目安）

播種期	7月11～20日	7月21～31日	8月1～5日
条間(cm)	70	60～70	50～60
株間(cm)	20～15	15～10	15～10
播種量(kg/10a)	4～5	6～8	7～9
1条1mの目標 出芽本数	14～18	20～25	25～30

- 【出芽不良で播き直しが必要な判断目安】・・・健全な株が7割以下と見込まれる場合
- ・播種後の激しい降雨などにより、クラスト（土膜）ができ、出芽不良となる場合があるため、播種後1週間ごろには必ず出芽状況を確認する。

2 播種の深さを調整

播種の深さを調整し、播種後に鎮圧する。

- 土壌が乾燥（しばらく降雨がない天気予報）している場合は、基準よりやや深い5～6cmの播種深度とし、播種後に鎮圧する。

3 梅雨明け後の乾燥対策

開花期～莢伸長・子実肥大期には適度な土壌水分が必要である。

- しばらく降雨がないと予想される場合は、早めに本暗きよの栓を閉めておく。

4 中耕・培土の実施

中耕・培土は、倒伏防止と共に、根系の発達と地上部の生育を促し、雑草防除にも有効である。

- 6月～7月上旬播きの中耕・培土は、本葉が2～3葉期から5～6葉期までに2回、株元に土が十分寄るように実施する。

・大豆の生育（7/16時点）

播種時期	大豆の生育
6月20日播き	5～6葉期
6月下旬播き	2～3葉期

- 遅播きで生育量が小さい場合は、コンバイン収穫時の「土のかき込み」によって汚損粒の発生が懸念されるため、中耕・培土を5～6葉期頃の1回に減らす。
- 土壌が乾燥した場合は、中耕を控える（目安：中耕前10日間で20mm以下の少雨）。

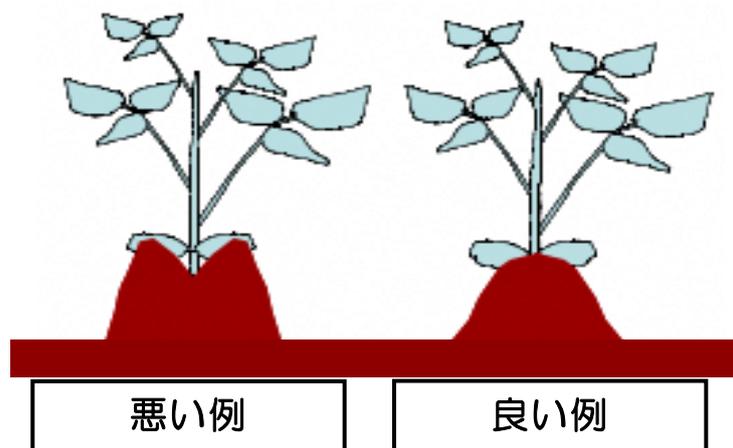


図 中耕・培土の良い例、悪い

5 病害虫の発生に注意

現在、フタスジヒメハムシによる食害が散見される程度で、大きな被害はない。

- 今後、高温・乾燥が続くと、ハスモンヨトウの発生が多くなるため、発生状況に注意する。発生が多い場合は、8月の防除を実施する。

以上